

第4回

いのちの作文  
コンクール



作品集



# もくじ

## ◆入賞作品

### 〈小学校低学年の部〉

#### 最優秀賞

王寺町立王寺北義務教育学校

二年 橋本 紬

#### 優秀賞

五條市立五條小学校

一年 谷口 花風

広陵町立真美ヶ丘第一小学校

二年 平尾 香乃

愛媛大学教育学部附属小学校

二年 若狭 早

### 〈小学校中学年の部〉

#### 最優秀賞

王寺町立王寺南義務教育学校

四年 鈴木 咲歩

#### 優秀賞

橿原市立畝傍南小学校

四年 中元 悠日

五條市立五條小学校

三年 齋藤 未采

加西市立字仁小学校

三年 藤取 遼

### 〈小学校高学年の部〉

#### 最優秀賞

葛城市立忍海小学校

六年 七井 ひなた

#### 優秀賞

大和高田市立高田小学校

六年 重信 こころ

五條市立五條南小学校

五年 外山 愛莉

御所市立葛城小学校

六年 木村 姫結

### 〈中学校の部〉

#### 最優秀賞

王寺町立王寺南義務教育学校

九年 清水 初音

#### 優秀賞

大和高田市立高田西中学校

一年 仁尾 慎優

大和高田市立高田西中学校

一年 佐伯 将翔

山添村立山添中学校

三年 大矢 花奈乃

## ◆佳作受賞者一覧

## ◆学校賞一覧

## ◆第四次奈良県「いのちの作文コンクール」審査委員

〈小学校低学年の部〉

## いのちの大切さ

王寺町立王寺北義務教育学校

二年 橋本 紬

ぼくが一年生の春、きゅう食を食べているとき、気がついたことがあります。ぼくは、はじめて、牛や馬とかの生き物がみんなのために、牛乳や、かわ、肉や卵を、くれていることがわかりました。そのときは、とてもかんしゃしていました。本当に人間と、どうぶつは、いのちがつながっているんだなあと思いました。ぼくはきゅう食の雪丸からあげがとてもおいしいからぜったいジャンケンにかちたいと思っていました。外はカリッカリで中はとてもやわらかいので、ジャンケンのときは気あいを入れてやっています。そのときぼくは、

「あっ。ぼくは、牛さんの肉や、鳥さん、ぶたさんの肉を食べているんだな。かわいいそうに、ころそなかつたららびのびと長年いきまていたと思うのに。」

と、思いましたが、食べないと、生きられないので、「ごめんね。」

と思いながら、食べていました。

もう、ぼくは、きゅう食でのびのびと食べようと思いました。そのときから、朝から元気に、

「おはようございます。」

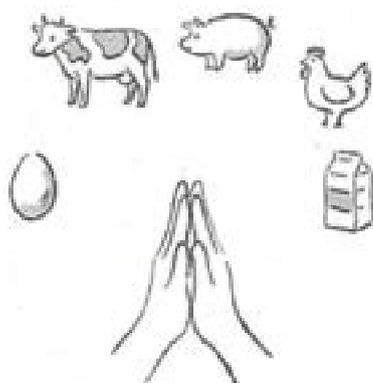
と言って、

「いただきます。」

と、

「ごちそうさま。」

を、元氣よく言うことになりました。ぼくはこれからもずっといのちを大切にしようと思います。



# いのちのべんきょう

五條市立五條小学校

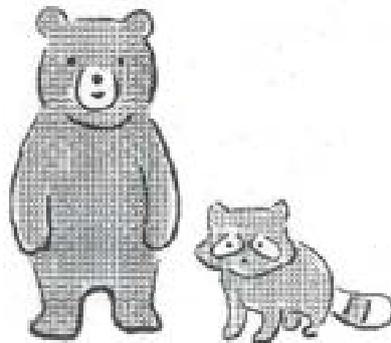
一年 谷口 花風

わたしのすきなどうぶつは、あらいぐまです。あらいぐまがごはんを食べているのを見てかわいいと思いました。

あらいぐまは、や生どうぶつです。しぜんの中ですよ。ごはんをしっかりと食べられるように、わたしはしぜんをこわしてはいけないと思いました。

すんでいるところに、にんげんが入っていたり車をはしらせたりしてはいけません。ごみもすててはいけません。木もすくなくなったら、木の葉がへるから、木もうえてあげたいです。

わたしのすきなあらいぐまが、気もちよくくらせたらいいな。



## どうぶついのち

広陵町立真美ヶ丘第一小学校

二年 平尾 香乃

今日、どうぶついのちのべん強をして、どうぶつも人間みたいに生きていくのかをしらべました。どうぶつも、生きていくから思っていることがあって、わたしは、どんなことを思っているのかなと思いました。いのちは一つしかないので、どうぶつもしんだらかわいそうだけど、どうぶつのおかげで人間は元気にくらせています。牛だったら牛にゆう、にわとりだったらたまご、羊だったら羊毛、牛、にわとり、ぶただったら肉です。ぜんぶ人間が生きるのにひつようなものです。

どうぶつでも人間でも、いのちは大切です。生きている間は、かなしかったりうれしかったり、いろんなことを思います。でもわたしは思いました。生きているときは一回しかないなので、自分がやりたいこと、言いたいことをやった方がいいと思ったのです。

べん強しているときに、どろんこの犬のしゃんを見ました。わた

しは、かわいそうだな、わたしだったらすぐあらってあげるなど思いました。わたしが犬だったらさせたいにいやです。どうぶつでも、やるときはいやなんだなと思いました。

さい後にどうぶつたちに思ったことがあります。がんばって生きてくれてありがとう。



## だっぴを見まもる

愛媛大学教育学部附属小学校

二年 若狭 早

二年星組で一番人気のかかりは、生きものがかりです。学校でつかまえた生きものについてしらべ、おせわをするのがしごとです。ぼくが生きものがかりになって、さいしょにおせわしたのはザリガニでした。小学校の「かんさつ池」でつかまえたザリガニは、二ひき、まず、星組みんなで名前を考えました。オスにつけた名前はスター、メスにつけた名前はアバ。つぎに、ザリガニについてしらべました。ザリガニはカニではなくエビのなかまなのだそうです。水そうのそこには石やすななどをしくこと、かくれられる場しよを作ることも分かりました。そして、ザリガニのだっぴをかんさつすることがぼくの目ひようになりました。ザリガニはせい長に合わせてだっぴをくりかえします。

六月、スターがだっぴをしました。ぬけがらはスターの形そのまま、白いザリガニがふえたみたいでした。このぬけがらはえいようが

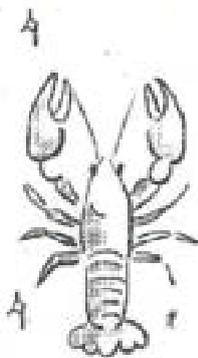
あるのて、なんと自分で食べます。それを知って生きものはがんばって生きているのだなと思いました。

「アバのようすがおかしい。」

だっぴのどちゅうで、アバはうごかなくなりました。エネルギーをつかいはたして、しんでしまったのです。ぼくはとてもかなしくなりました。もっと生きていてほしかったです。

何かできることはなかったのか、ぼくはしらべました。ですが、だっぴを手つだっぴはいけないことが分かりました。人の手でむりやり引っぱると、ザリガニのやわらかいからがきずついてしまうそうです。だっぴを見まもること、それがぼくにできることでした。

ぼくは生きものがかりになって、いのちの大切さを知りました。人も生きものも、いのちは一つだけです。スターはハサミを上げて元気になっています。正しくおせわをして、たくさん長生きしてほしいです。



〈小学校中学年の部〉

## おばあちゃん

王寺町立王寺南義務教育学校

四年 鈴木 咲歩

「じゃあね。バイバイ。」

これがおばあちゃんから、たぶん最後に聞いた言葉だったと思います。

おばあちゃんがなくなる何年も前から、私がおばあちゃんの家に行くど、

「咲歩、来たんか。」

という、うれしそうなおばあちゃんの表じようが、今でもわすれられません。私ができつくと、ぎゅってしてくれました。私はいつも、おばあちゃんとのぎゅっが終わったら、おっちゃんとゲームをしていて、おばあちゃんの死ぬことなんて、考えてもいませんでした。

そして、私が一年生くらいの、冬ごろだったと思います。あんなに元気で、明るかったおばあちゃんが、病院へ運ばれました。家族みんなどはおばあちゃんを見に行きました。おばあちゃんを見ると、笑顔だ

ったころとは、ぜんぜんちがいで、かれそうな植物のようでした。そこで、お母さんが、タブレットで、私たち、家族の写真を見せてあげていました。あばあちゃんがどんな気持ちなのかは、分かりませんが、しっかりと、写真を見ていてくれました。そこからは、あまりおぼえていませんが、もう少しして、もう会えなくなることは、分かっていた。

数日後、おばあちゃんなくなりました。家族みんなが泣きました。私は、もう、言葉が本当に出ませんでした。そして、おばあちゃんはやかれ、ほねだけとなりました。私は、本当に悲しくて、心の何かが、動きはじめたような気がしました。やがて、おばあちゃんはおもちになって帰ってきて、そのおもちを、家族みんなて思い出をふりかえり、食べました。そして、年がたち、四年生になったころ、手作りの指輪を、おばあちゃんの前におきました。私とおそろいの、ピンクの指輪です。これで天国でも、幸せになってください。

## 今を全力で生きる

榎原市立畝傍南小学校

四年 中元 悠日

私は二年生の秋の遠足で、うだ・アニマルパークへ行き、いのちの勉強や動物の見学をしました。

し育員さんの話で心に残ったのは、私たちが毎日飲んでいる牛にゆうについてです。牛にゆうはお母さん牛からもらっていますが、赤ちゃん牛は、お母さん牛から一週間しかミルクをもらえないことを知りました。本当は赤ちゃん牛が飲むはずだったミルクを私たちがいただいていることを知り、子牛の思いの分まで牛からもらう牛にゆうやヨーグルト、バター、チーズなどを大切に飲んだり食べたりしていこうと思いました。

今、私は四年生になりました。父の実家に子犬の「ちこ」がやってきました。しば犬で、ごはんをたくさん食べて元気に走り回っています。散歩が大好きで、「弟とちこ」対「私」で競争をしています。

また、母の実家には、「りく」という老犬がいます。「りく」は人間でいうと八十四才で、ごはんは少ししか食べられず、目や耳が不自由で、散歩もゆっくりしか歩けません。私がつなを引いて案内しないと、川にはまりそうになったり物にぶつかったりします。「りく」も昔は「ちこ」のように、元気に走り回っていたのだらうと思います。

これは、人間も同じだと思えます。私もいつかおばあさんになります。行きたい所にも自分で行けず、食べたいものも食べられなくなってしまうでしょう。

だからこそ私は、今できること、例えば大好きなごはんをもりもり食べる、「ちこ」と遊ぶ、学校で友達と話す、勉強する、行きたい所に行く、好きなごはんを自分で作るなど、全部やりたいです。

父と母からもらった命を大切にして、今を全力で生きたいと思っています。



## 生きるってときめかすめない

五條市立五條小学校

三年 齋藤 未菜

数年前、家のそう庫の上から鳥のすが落ちてしまったことがありました。六ひきのひなが、不安そうに「ピーピー」と鳴きながらふるえていました。よく見るとけがをして血が出ているのがわかりました。

わたしは、こわさでときどきして、心配だけで見守ることしかできませんでした。フワフワした羽のひなたちは、まだとても小さくて、死んでしまうのではないかとぞっとしたのをおぼえています。

しばらくして親鳥からエサをもらって食べているのがわかりました。それを見てとても安心しました。きつとケガもおおって成長していつてゐるんだなあと、うれしくなりました。

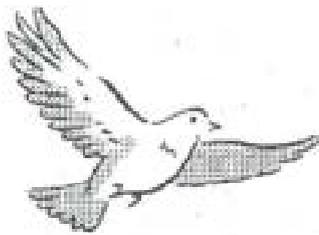
さらに、ひなはとべるようになりました。自分でエサをとってきて上手に食べていました。

そしてついにはりっぱな大人になりました。フワフワだった羽が、キ

レイな、るり色になり、にぎやかな鳴き声も聞こえてくるようになりました。「ヤッホー」「遊ぼうよー」と言っているみたいにペランダにとんできたり、ピョンピョンとんで、しっぽをふったり元気なすがたを見せてくれました。

わたしは、ひなたちの消えそうな命を見守るしかできなかつたくやしい気持ちを、今でもわすれることができません。

でもひなたちの命はとても強かったです。生きることをめきめきないすがたを学びました。どんなことがあっても生きていく力をきたえていきたいです。わたしも鳥たちのように広い世界ではばばいてみたいです。



## 食べ物は命

加西市立字仁小学校

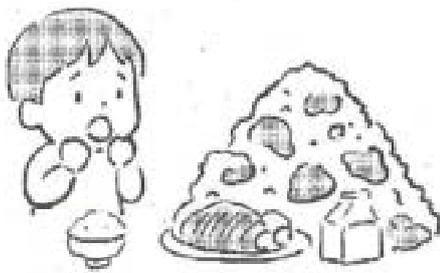
三年 鷹取 遼

ぼくの小学校では、一から三年生までの給食が同じようきに入って運ばれてくる。給食当番がみんなに取り分けて、あまった分は食べられる子がおかわりをする。ぼくたち三年生を中心にのこさないようにしている。だから、フードロスのクイズを出された時に、「そんなに食べのこしはないだろう。」と思った。ところが、ぼくの予想とは反対に、日本のフードロスは、一年間で五百二十三万トン（令和三年度）、一人あたりやく四十キログラムだそつだ。四十キログラムといえは、ぼくの体重よりも重たい。かなりの量だと思った。

そんな時に、SNSでたじま牛の「春長くん」の動画を見た。さいしよはエサを食べたり、ふつうに生活したりしている動画だった。しかし、さい後には、やき肉になって食べられる。春長くんは、家ちくだから、食べられるために育てられた命だった。ぼくは、今までお肉を見ると「おいしそう。食べたいな。」っていうワクワクした気持ち

でいっぱいになっていたけど、今回はすごくふくさつな気持ちになった。だって、さつきまで、ベットや動物園の動物と同じように大切に育てられて生きていたのに、本当は人間に食べられるために生まれてきた命だったと分かったからだ。ぼくは、その時フードロスの話を思い出した。きつとすてられた食べ物の中には春長くんのような命もたくさんあったにちがいない。ぼくは、食べ物は命なんだということにあらためて気がついた。

それからぼくは、今までい上に食べ物を大切に考えるようになった。「いただきます。」と手を合わせる時も、食べ物になった命へ感じやをわすれない。ぼくと同じ気持ちの人がふえれば、フードロスもなぐすことができると思う。すてられる命がなくなる未来にしたい。



〈小学校高学年の部〉

## 「うさぎちゃんとの思い出」

葛城市立忍海小学校

六年 七井 ひなた

わたしの家では、うさぎを飼っていました。そのうさぎは私が生まれた時から、ずっと一緒にいてくれました。小さくて、ふわふわの体で、私のそばに寄り添いながら、家族の一員として毎日を過ごしていました。

その子は、足が弱くて、あまり歩くことが上手ではありませんでした。だけど家族みんなで可愛がり、協力してお世話をし、大切に育てました。学校で嫌なことがあった日も、その子を見ると、心があたたくくなりました。うさぎちゃんが少し弱って水も自分では飲めなくなった時も水を飲ませてあげたり、優しい声もかけてあげたりしました。

そのうさぎが旅立つ日、家族みんなで見守りました。

「もう足は痛くないね。」

と声をそっとかけました。一緒に泣きながらこれまでの思い出を思

い返しました。長い時間を一緒に過ごしてきたこと、ずっと見守ってもらえていたことに感謝し、命の大切さや、別れの悲しさを初めて本当の意味で知ることができました。

命にはかぎりがあるけど、その間にたくさん、

「ありがとう。」

や、

「大好き。」

を伝えることができると思いました。大事な命は、ずっと心の中で生き続けてくれます。うさぎちゃんと過ごした日々は、私にとって宝物です。

今は新しくお迎えしています。新しい子ともたくさん思い出を作り、これからも常に命の大切さを忘れず、自分や家族や動物の命を大切に思い続けたいです。



## 生き物のつながり

大和高田市立高田小学校

六年 重信 こころ

私が五年生のころ、学校でマリーゴールドを育てた経験を話します。

学校でマリーゴールドの種に毎日かかさず水をあげていました。二、三日の間にすべての芽が出て、そのときはうれしく、小さくてかわいいと思いました。その日から二か月後ぐらいにはきれいな花がさいていました。二か月前ぐらいは小さな芽だったのに、花がさいて、くきはのびて太くなり、葉はこくなって葉の枚数は増え、背はのびていました。だから、ぐんぐん変化があつて最初はびっくりしました。母や祖母の気持ちがあつたような気がしました。その気持ちは、よく「大きくなったね」「身長がびた」といわれることがたくさんあることです。そんなふうに、私も自分で育てたマリーゴールドが育つたから大きくなったなと思いました。

このように、自分で植物を育てることと命があること、成長を感じ

ることができました。人は成長して生命を受けついでいるのと同じで植物も命があつて成長し、生命を受けついでいるということは、人間も、植物も、同じ生き物だと思います。

だから、自然を大切にし、自分の命と周りの人の生命も大切にしたいと考えます。そのために私ができることは、自然の環境を大切にすることです。人は酸素を吸って二酸化炭素を出します。その二酸化炭素を吸って酸素を出す植物と人どちらかが、この地球にいなくなってしまうと植物も人もいなくなってしまうと考えます。このようなことが起こらないために自然の環境を大切にしたいと考えます。私は、ポイ捨てや自然をあらさないことを心がけていくと周りの人もだんだん心がけていき、自然を大切にできると 생각합니다。だから、私はもっともっと自然や自分の命、周りの人の命、すべての生き物の命を大切にしていきたいと思ひます。

## 戦争で消えた動物たち

五條市立五條南小学校

五年 外山 愛莉

私は「戦争で消えた動物たち」という本を読みました。この本を選んだのは、今から、八十年前の太平洋戦争で犠牲になった動物たちのことを私は知らなかったからです。戦争中は、「召集令状」という国からの通知で、多くの人が戦争におもむきました。犬や猫にも、それと同じような命令が来て、集められ、殺されたというのです。

初めて聞く、犬や猫の「供出命令」という言葉に、私は、びっくりしました。飼い犬だけでなく、のら犬も、殺されたそうです。毛皮は寒い戦地の兵隊さんの防寒のため、肉はかんづめにしたそうです。このことを知って、私は、悲しくなりました。

人の命をうばう戦争は絶対してはいけないと強く思いました。人間でなく動物にも不幸な出来事だったことを知り、信じられない思っていました。

終戦から何十年か経っても大事な家族であるペットを失った悲し

みや、言いようのない、いかりから解放されない人がいるということ  
です。戦争で、なぜ動物まで犠牲にならなければ、いけなかったのか、  
私には理解できなかつたです。そんな残酷なことは、これからは絶対  
に起こしては、いけないと思います。

また、世界中で戦争が起きています。

どうして戦争がない世界にならないのでしょうか。早く戦争のな  
い平和な世界になってほしいと強く思います。

私は、本を読んで戦争が皆を不幸にしたことを学びました。

## 妹

御所市立葛城小学校

六年 木村 姫結

私は「いのち」というものを考える時、まず思いうかんだのは母でした。私には二人の妹がいて三姉妹です。

私が三年生の春、父と母にエコー写真のついた手紙をもらいました。手紙には、お腹に赤ちゃんがいます。と書いてあり、とてもうれしくなりました。

母のお腹はどんどん膨らんできて、よく疲れたり、しんどいと言っ  
て寝ていたりすることもありました。赤ちゃんが十二月に生まれる  
ことや女の子だということもわかってきました。私の誕生日も十二  
月なのでドキドキわくわくしながら待っていました。

十二月になり、赤ちゃんが生まれました。三姉妹になりました。母  
はテレビ電話でニッコリ笑ってくれました。でも、母は疲れた目をし  
ていました。だから私は、『お疲れさま』と言いました。

子どもを産むのはとても危険だし大変なのに母は三人も無事に生  
んでいて命を生み出すだけでなく、守って育ててくれていることに  
とても感謝しています。

妹が生まれてから生活はとても変わりました。学校から帰ると抱  
っこしておむつを替えて、その間に母は夕食を作ってくれていまし  
た。妹はよく泣くので、母はいつも妹を抱っこしながらご飯を食べて  
いました。

妹中心の生活で、口に入れたらいけない小さいおもちゃも全部片  
づけて、抱っこしておむつを替えて、やらなければいけないことがた  
くさんで、自分のやりたいことができないこともあったけど、妹の命  
を守るためであり、私はまた一つ命の大切さを学べたと感じていま  
した。

〈中学校の部〉

## 家族のぬくもり

王寺町立王寺南義務教育学校

九年 清水 しみず 初音 はつね

私は物心がついてから、一度も父の泣く顔を見たことがありませんでした。

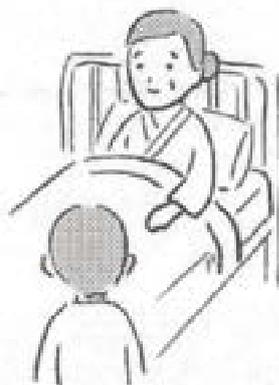
私は幸せなことに、身近な人の死というものを感じたことはありませんでした。以前、母方の祖母が病気になるってしまったことはありましたが、大きな不幸には至りませんでした。

しかし、一年ほど前に父方の祖母に認知症の症状が出はじめました。それから父は、月に二、三回ほど祖父母に会いに行くようになりました。祖母は入院していたため、何度か父とお見舞いに行ったのですが、回数を重ねるごとに、祖母は私のことも父のことも思い出せなくなり、目が合うことも少なくなっていきました。その時の父の気持ちを考えて、胸がしめつけられます。

祖母が亡くなる二週間ほど前から、祖母はご飯を食べられなくなり、「そろそろだ。」と言われました。最後に祖母に会いに行った日、普段は口数のあまり多くない父が、祖母に「今までありがとう」と何

度も何度も言っていました。その姿を見て、私は家族の優しさを身をもって感じました。

祖母が亡くなる直前も、父は会社を早退して最後のお別れをしたそうです。お葬式では、父も祖父も棺桶が閉じられるまで、ずっと祖母の顔を見ていました。私は、その時初めて父の涙を見ました。普段は冷静で落ちついていて父の涙を見て、親子の温かさを感じました。離れていても、家族であることには変わりはないので、家族でいられる時間を大切にしていきたいです。



## 助産師さんの話を聞いて

大和高田市立高田西中学校

一年 仁尾 慎優

ぼくは助産師さんの話を聞いて、赤ちゃんが産まれるのは奇跡だと知りました。赤ちゃんは十月十日という長い時間、お母さんのお腹で過ごし、少しずつ成長して、やっと生まれてきます。その間、お母さんの体は大きく変化し、体調が悪くなったり、思うように体を動かせなかったり、とても大変なそうです。それでもお母さんは赤ちゃんのためにがんばり、そして助産師さんやお医者さんが命を守るために支えてくれて、ようやく一つの命が誕生するのだと知りました。

この機会に、ぼくはお母さんに自分が生まれたときの話を聞きました。ぼくは生まれる前に逆子になってしまい、お母さんは毎日逆子体操をがんばっていたそうです。さらに出産のときには陣痛が来る前に破水をしてしまい、「四十八時間以内に生まないと危ない」と言われ、とても不安だったと聞きました。それでもお母さんは「どうか早く陣痛が来てほしい」と願ひ続け、やっと陣痛が始まりました。そ

して八時間後、ぼくは産声をあげて生まれたそうです。その瞬間、お母さんとお父さんは涙を流したと聞き、その話を聞いたぼくも胸が熱くなりました。

お母さんは入院中、はじめてのことばかりで不安だったそうです。しかし、助産師さんが寄りそって話を聞いてくださり、一つ一つ不安を取り除いてくれたと言っていました。だからお母さんは、はじめての子育てだったけれど、安心して自信をもってぼくを育てていけると話してくれました。その言葉を聞いて、助産師さんの存在は赤ちゃんだけではなく、お母さんにとってもとても大きな支えになるのだとわかりました。

命は当たり前にあるものではなく、どの命も大切に守られて、ようやくここに存在するものです。友達も家族も、みんな一人一人が奇跡のようになんて生まれてきた存在だと思えば、人を傷つけたり命を軽く考えたりしてはいけないと心から感じました。そして、普段一緒にいる友達や家族にも「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちをもち、接したいと思いました。

## grandmother

大和高田市立高田西中学校

一年 佐伯 将翔

みなさん、「命」と聞いてどんなことを思い浮かべますか。ぼくは、命とは、どんな時でもあきらめずに生きようとする力だと思います。

今年の七月、夏休みに入る前、ぼくの大好きなおばあちゃんが敗血症という病気になるしました。体にはい菌が広がり、とても危ない状態になったと聞いて、ぼくはとても怖くなりました。お医者さんから

「命の危険もある」と言われ、家族みんなが不安でいっぱいでした。

治療のおかげでおばあちゃんの命は助かりましたが、病気の影響で、両足を切断しなければなりません。」「どうしておばあちゃんか……」と思いました。でも、ベッドの上でおばあちゃんが「生きているだけでありがたいね」と笑顔で言った姿を見て、ぼくは驚き、涙が止まりませんでした。

おばあちゃんは歩けなくなっても、生きることを前向きに考えていました。その強さを見て、ぼくは「命があることは当たり前じゃな

い。どんな形でも命があることが一番大切なんだ。」と気づきました。命は一度きりです。そして、命があるからこそ、家族と話したり、友達と遊んだり、未来の夢をもったりすることができます。ぼくは、おばあちゃんの姿を見て、もっと一日一日を大切に生きようと思いました。そして、自分の命も周りの人の命も、大切に守れるような人になりたいです。

## すべての生き物のいのちを

山添村立山添中学校

三年 大矢 花奈乃

私たちは、この世界で様々な生き物と共に生きています。しかし最近、私たち人間と生き物との間で色々な問題が発生しています。そんな中で、人間と生き物の両方が幸せにこの世界で生きていくために、私たちができることがあると思います。

最近、日本では熊が人を襲ってしまうことが増えています。その後、人に危害を加えた熊などは、駆除されることがほとんどです。熊に襲われ亡くなる人、駆除される熊、こうして、どんどん「いのち」が消えてしまうのです。人と熊、どちらの「いのち」もなくならないために、私たちができることがあります。

熊が山から降りてくる理由は、食料を求めているからです。だから、お腹を空かせた熊は、ポイ捨てされたゴミなどを食べてしまいます。すると、その味を覚えた熊は食料を求めて再び山から下り、結果として人に危害を加えてしまうのです。また、観光客が熊にスナック菓子を与えてしまったり、熊に遭遇した観光客が写真を撮りたいがために熊に接近したりと、熊が人の存在に慣れてしまうことも原因です。つまり、熊が山から下りてくるようになってしまったのは、私たち人

間の行動のせいでもあるのです。私たちのせいで「いのち」がなくなってしまうなら、私たちがやめるべき行動があります。

まず、熊に遭遇したら近づかず、静かにその場を離れることです。

こうして熊を刺激しないようにしたり人と熊との間で距離を置いたりすることが大切です。

次に、熊に人間の食べ物を与えないことです。熊が一度私たちの食べ物を食べると、味を覚え再び山から下りてきて、民家に侵入してしまいます。だから、私たちは野生の生き物に人間の食べ物を与えないようにしましょう。

そして、自然環境を汚さないことです。ポイ捨てなどで自然を汚してしまうと、生き物だけでなく、私たち人間にも影響があります。自然を汚してしまうことは地球温暖化の原因となり、植物も含む様々な生き物が生きづらくなるのです。ゴミを食べてしまう生き物たちが食料を求め私たちのもとへやってきて、困ってしまうのも私たちです。

私たち人間の行動で生き物の「いのち」がなくなってしまうのなら、絶対に変えるべき行動があるはずで、この地球という場所でも様々な生き物と私たち人間の「いのち」が失われないために、私たちの行動を変えませんか。

# 佳作受賞者一覧

## 〈小学校低学年の部〉

|               |    |        |
|---------------|----|--------|
| 大和高田市立菅原小学校   | 一年 | 仲 柚那   |
| 大和高田市立淳孔西小学校  | 二年 | 細川 智梨  |
| 大和高田市立土庫小学校   | 二年 | 細川 奈緒太 |
| 大和高田市立土庫小学校   | 二年 | 松井 あかり |
| 橿原市立臥傍南小学校    | 二年 | 中元 佳宝  |
| 宇陀市立堂生小学校     | 一年 | 砂古 佳呂瑠 |
| 宇陀市立橿原西小学校    | 二年 | 山本 彩葉  |
| 王寺町立王寺北義務教育学校 | 二年 | 賀来 空音  |
| 王寺町立王寺北義務教育学校 | 二年 | 黒川 日和  |
| 黒滝村立黒滝小学校     | 二年 | 吉村 一輝  |

## 〈小学校中学年の部〉

|               |    |        |
|---------------|----|--------|
| 奈良市立朱雀小学校     | 三年 | 田中 菜那  |
| 奈良市立朱雀小学校     | 四年 | 西門 千香  |
| 葛城市立忍海小学校     | 三年 | 中岡 華音  |
| 葛城市立富麻小学校     | 四年 | 中島 聡太郎 |
| 葛城市立富麻小学校     | 四年 | 水野 颯   |
| 宇陀市立菟田野小学校    | 三年 | 向井 千景  |
| 王寺町立王寺南義務教育学校 | 四年 | 大槻 澄恰  |
| 王寺町立王寺南義務教育学校 | 四年 | 長谷 明寿香 |
| 王寺町立王寺南義務教育学校 | 四年 | 河野 陽菜  |
| 王寺町立王寺南義務教育学校 | 四年 | 有留 美宙  |

〈小学校高学年の部〉

奈良市立伏見小学校

六年 西村 樹恒

奈良県立青柳中学校

一年 三浦 一真

大和高田市立高田小学校

六年 小畑 瑠莉菜

大和高田市立高田西中学校

一年 土橋 愛依

桜井市立城島小学校

五年 泉岡 紗弥

大和高田市立高田西中学校

一年 入谷 結菜

桜井市立城島小学校

六年 西岡 萌恵

大和高田市立高田西中学校

一年 斧田 誠士

五條市立五條小学校

五年 上中 彩葉

山添村市立山添中学校

一年 福田 慧悟

葛城市立忍海小学校

六年 岡田 明日香

山添村市立山添中学校

二年 増尾 慎太郎

葛城市立忍海小学校

六年 池田 詩

山添村市立山添中学校

二年 今本 友里愛

葛城市立葦麻小学校

六年 岡 結介

山添村市立山添中学校

三年 中谷 陽大

広陵町立広陵西小学校

六年 竹村 奈都子

王寺町立王寺北義務教育学校

八年 村田 杏椏

野迫川村立野迫川小中学校

五年 中本 鈴

王寺町立王寺南義務教育学校

七年 南大津 光

学校賞一覧

王寺町立王寺北義務教育学校

〈小学校低学年の部〉

葛城市立忍海小学校

〈小学校高学年の部〉

王寺町立王寺南義務教育学校

〈小学校中学年の部〉

大和高田市立高田西中学校

〈中学校の部〉

〈中学校の部〉

第四回奈良県「いのちの作文コンクール」審査委員

奈良県道徳教育研究会長

王寺町立王寺北義務教育学校長

奈良県国語教育研究会副会長

奈良市立都祁小学校長

「いのちの教育実践研究事業実践研究校」所管教育委員会

奈良市教育委員会事務局

「いのちの教育実践研究事業実践研究校」所管教育委員会

宇陀市教育委員会事務局

県総務部知事公室うだ・アニマルパーク振興室長

県教育委員会事務局教育次長

県教育委員会事務局人権・地域教育課長

県教育委員会事務局義務教育課長

荒木 篤人

丸本 佳則

中川 史織

柳井 季子

佐々岡 正

小谷 隆男

高木 信行

矢奥 泰久



---

---

第4回奈良県「いのちの作文コンクール」  
作品集

令和8年3月

奈良県教育委員会事務局  
義務教育課

---

---